

1-3 ヒアリング調査・鹿沼東高等学校

県立学校対象のアンケート調査結果から、親学習プログラム実施校が少なくなっている状況が判明したが、そうした中、継続実施している学校がある。その学校にヒアリング調査を行い、持続可能にしている要因等を探ることで、本研究につながるヒントが得られるのではと考えた。

「思春期版家庭教育支援プログラム促進モデル事業」のモデル校として平成25年度に「親学習プログラム」の実施をスタートして以来、継続している鹿沼東高等学校に、なぜ続けているのか秘訣などをきいてみた。



どのように実施していますか？

毎年10月頃、「思春期の子どもとの関わり方」をテーマに第1学年保護者会学習会で実施しています。実施期日やクラス単位で行うことなど、方法や内容を上都賀教育事務所ふれあい学習課へ伝え、ファシリテーターの手配から当日の資料準備などすべてやっていただき、大変助かっています。また、親学習プログラム指導者研修を修了した地域で活動されている方がファシリテーターであることも、参加する保護者にとって身近な存在に感じ、安心して話せることにつながっています。毎回保護者の満足度が高く、教員にとっても保護者理解につながる貴重な時間となっています。



担任とファシリテーターが簡単に打合せをしてから開始しました

各クラスにファシリテーターが入り、ファシリテーターの見事な進行により終始明るい雰囲気でした



[平成30年度第1学年保護者学習会より]





実施することでどんな効果がありますか？

通学範囲が広いため、特に第1学年は生徒も保護者も孤立してしまう恐れがあります。しかし、親学習プログラムを実施することによって、保護者同士をつなぐネットワークづくりになり、生徒と親を孤立させないために大いに役立っています。また、これからの学びの形態として重要視されている「アクティブラーニング」について、教員や生徒向けには研修や学習会など行うことはありますが、保護者向けには特にありません。でも、親学習プログラムを実施することで、保護者向けの学びの場として提供できることになり、家庭の教育力向上を図ることにもつながっていきます。



継続できている要因は何ですか？

準備いらずで手軽に実施できる上に、生き生きと参加する保護者の姿を実際に目の当たりにした教員にとって保護者理解につながっていることが大きな要因になっていると思います。そして、第1学年で必ず実施するよう次年度の行事予定にしっかりと組み入れているのも大切なところです。また、継続してきたことで、親学習プログラムの様子や効果を知っている教員がどの学年にもいるようになっています。

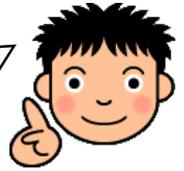


「親学習プログラム」のファシリテーターは、親学習プログラム指導者研修修了者や総合教育センター、各教育事務所の社会教育主事が務めます。親学習プログラム指導者研修修了者は、グループを作り市町の事業や公民館の講座などでボランティアで活躍しています。



今後について何かお考えなどありますか？

過去に、第2学年でも親学習プログラムを実施したことがありました。その時は、第1学年の実施日と連続し、ファシリテーターの確保に大変苦労したため、それ以降は実施していません。ただ、親学習プログラムの効果を考えると、第2学年でも実施したいと強く思っていて、次年度は、PTA総会の全体会后に短時間プログラム（進路に関する内容）を実施する方向で考えています。



今回の調査研究や親学習プログラムに対してアドバイスをお願いします！

「親学習プログラム」という名前が堅く、その名前を見ただけで保護者は構えてしまったり、参加を断ったりすることもあります。もっと柔らかい印象の名前（キャッチコピー的な）を考えてもよいと思います。例えば、「〇〇トーク」、「親？トーク」、「保護者版アクティブラーニング」など、保護者目線で考えることも必要ではないでしょうか。また、対象の人数や会場、時期に合わせて選べることができるプログラムが用意されているとよいと思います。例えば、教材キットのように、実施時間に合わせてS・M・Lセットを提供するといったようなことができると、活用促進につながるのではないかと思います。

今回の調査研究で、短時間プログラムを新たに開発されていると伺い、大変期待しています。活用する学校を増やすために、協力できることがあれば、喜んでやらせていただきます。

